

沿革

【法人本部】

2010 平成 22 年 22 の道立試験研究機関を統合し、地方独立行政法人北海道立総合研究機構として設立された。札幌に法人本部を置き、3 部（経営企画部、研究企画部、連携推進部）を設置。

【農業研究本部】

1876 明治 9 年 北海道開拓使によって北海道開拓使牧牛場（現畜産試験場）を開設。（札幌）

1886 明治 19 年 忠別農作試験所（現上川農業試験場）を開設。（旭川）

1895 明治 28 年 十勝農事試作場（現十勝農業試験場）を開設。（帯広）

1901 明治 34 年 北海道農事試験場（札幌）を設立し、上川、十勝を分場に改称。

1906 明治 39 年 農商務省月寒種牛牧場滝川用地（現畜産試験場（旧滝川畜産試験場））を開設。

1907 明治 40 年 北海道庁立地方農事試験場北見分場（現北見農業試験場）を開設。（北見）

1909 明治 42 年 北海道庁立渡島農事試験場（現道南農業試験場）を開設。（北斗）

1910 明治 43 年 北海道農事試験場として札幌に本場、旭川・十勝・北見・渡島に支場をもつ全道的な試験研究機関となる。

同年 北海道庁立根室農事試作場（別海）、釧路農事試作場（釧路）を開設。

1916 大正 5 年 北海道庁立天塩農事試作場を開設。（天塩）

1918 大正 7 年 農商務省月寒種牛牧場滝川支場を農商務省滝川種羊場に改称。

1927 昭和 2 年 北海道農事試験場根室支場（現根釧農業試験場）を設置。（中標津）

1932 昭和 7 年 農商務省滝川種羊場を北海道庁種羊場に改称

1942 昭和 17 年 農事試験場（本場、上川、十勝、北見、渡島、根室）、農事試作場（天塩）、種畜場、種羊場が併合され北海道農業試験場となる。

1947 昭和 22 年 北海道農業試験場畜産部を札幌から新得へ移転。

1950 昭和 25 年 全国農業試験研究機関の整備等により国立農業試験場と道立農業試験場に分かれる。（道立は、札幌に本場、渡島・上川・十勝・北見・根室・天北（天塩）に支場、滝川に原原種農場、新得に種畜場、滝川に種羊場）※北海道農業試験場畜産部を北海道立種畜場に改称。

1952 昭和 27 年 宗谷支場を開設。（浜頓別）（現天北支場）

1958 昭和 33 年 北海道農業試験場滝川種羊場を道立滝川種畜場に改組。
北海道立種畜場を北海道立新得種畜場に改称。

1959 昭和 34 年 北見支場を北見から訓子府へ移転。

1960 昭和 36 年 十勝支場を現在の帯広から芽室へ移転。

1962 昭和 37 年 道立新得種畜場を北海道立新得畜産試験場、道立滝川種畜試験場を北海道滝川畜産試験場に改称。

1964 昭和 39 年 本場・支場を廃止し、独立した 7 農業試験場（中央・道南・上川・十勝・北見・根釧・天北）、2 畜産試験場（新得、滝川）、原原種農場を含めた 10 体制となる。
※宗谷支場を天北農業試験場に改称、天北支場は天北農業試験場と合併し天塩支場となる。

1966 昭和 41 年 中央農業試験場を札幌から長沼へ移転。

1982 昭和 57 年 天塩支場を廃止。

1986 昭和 61 年 原原種農場を再編し、植物遺伝資源センターに改組。

1994 平成 6 年 上川農業試験場を旭川から比布へ移転。

1996 平成 8 年 花・野菜技術センターを開設。（滝川）

2000 平成 12 年 新得畜産試験場と滝川畜産試験場を統合。（北海道立畜産試験場となる（新得））

2006 平成 18 年 植物遺伝資源センターを中央農業試験場に統合。天北支場が上川農業試験場の支場となる。

2010 平成 22 年 22 の道立試験研究機関を統合した地方独立行政法人北海道立総合研究機構の設立に伴い、農業研究本部及び 8 試験場（中央、上川、道南、十勝、根釧、北見、畜産、花・野菜）1 支場（天北）となる。

【水産研究本部】

1888	明治 21 年	千歳中央孵化場（現さけます・内水面水産試験場）を開設。（千歳）
1901	明治 34 年	北海道水産試験場本場を開設。（小樽）
	同年	千歳中央孵化場を北海道水産試験場・千歳分場に改称。
1910	明治 43 年	室蘭、釧路、稚内に北海道水産試験場員駐在所を開設。
1916	大正 5 年	駐在所を支場に改め、新たに根室支場を開設。 （北海道水産試験場は本場（小樽）及び千歳・西別・釧路・室蘭・根室・宗谷支場）
1925	大正 14 年	北海道水産試験場釧路支場を廃止。
1927	昭和 2 年	千歳、西別支場は北海道水産試験場から分離し、千歳鮭鱒孵化場を設置。
1928	昭和 3 年	北海道水産試験場函館支場を開設。
1931	昭和 6 年	本場を小樽から余市へ移転。
	同年	宗谷支場を稚内支場に改称。
1932	昭和 7 年	北海道水産試験場室蘭支場を廃止。
1934	昭和 9 年	千歳鮭鱒孵化場を北海道鮭鱒孵化場に改称。
1936	昭和 11 年	北海道鮭鱒孵化場を千歳から札幌へ移転。
1941	昭和 16 年	北海道鮭鱒孵化場を北海道水産孵化場に改称。
1942	昭和 17 年	網走水産指導所を開設。（現網走水産試験場）
1949	昭和 24 年	北海道水産試験場釧路支場を再開。
1950	昭和 25 年	国の水産研究機構の改革により水産庁北海道区水産研究所と北海道立水産試験場に分かれる。（道立は余市の本場、函館・釧路・網走・稚内・根室に支場、室蘭・紋別・留萌に分場）
1964	昭和 39 年	本場・支場を廃止し、北海道立中央・函館・釧路・網走・稚内の 5 水産試験場体制となる。 ※分場は中央水産試験場有珠分場、函館水産試験場室蘭分場、網走水産試験場紋別分場の 3 分場。（根室支場、留萌分場は廃止）
1972	昭和 47 年	北海道立栽培漁業総合センターを開設。（鹿部）
1985	昭和 60 年	北海道立水産孵化場を札幌から恵庭へ移転。
2006	平成 18 年	栽培漁業総合センターと函館水産試験場室蘭支場が統合し、北海道立栽培水産試験場（室蘭）を設置。
	同年	網走水産試験場紋別支場（旧紋別分場）を廃止。
2010	平成 22 年	22 の道立試験研究機関を統合した地方独立行政法人北海道立総合研究機構の設立に伴い、水産研究本部及び 7 試験場（中央、函館、釧路、網走、稚内、栽培（室蘭）、さけます・内水面（恵庭））3 支場（道北・道南・道東）となる。同時に、北海道立水産孵化場はさけます・内水面水産試験場に改称。
2011	平成 23 年	道北支場を廃止。（増毛）

【森林研究本部】

1950	昭和 25 年	北海道立林業指導所を開設。（旭川）
1957	昭和 32 年	岩見沢林務署光珠内事業所を開設。（美唄）
1961	昭和 36 年	岩見沢林務署光珠内事業所を北海道光珠内林木育種場に改称。
1964	昭和 39 年	北海道光珠内林木育種場を北海道立林業試験場に、北海道立林業指導所を北海道立林産試験場に改称。
1966～1970	昭和 41～45 年	林業試験地（道南（函館）、道東（新得）、道北（中川））を開設。
1975	昭和 50 年	3 試験地を支場に改称。
1999	平成 11 年	緑化樹センターを設置。（美唄）
2010	平成 22 年	22 の道立試験研究機関を統合した地方独立行政法人北海道立総合研究機構の設立に伴い、森林研究本部及び 2 試験場（林業試験場、林産試験場）3 支場（道南、道東、道北）となる。

【産業技術研究本部】

1922	大正 11 年	北海道工業試験場を開設。（札幌）
1923	大正 12 年	工業試験場で醸造に関する試験研究業務を開始。（現食品加工研究センター）
1949	昭和 24 年	北海道工業試験場を北海道立工業試験場に改組。 ※国と分離
1992	平成 4 年	北海道立食品加工研究センターを開設。（江別）
2010	平成 22 年	22 の道立試験研究機関を統合した地方独立行政法人北海道立総合研究機構の設立に伴い、産業技術研究本部及び 2 試験場（工業試験場、食品加工研究センター）となる。
	同年	ものづくり支援センターを設置。（札幌）

【環境・地質研究本部】

1950	昭和 25 年	北海道地下資源調査所を開設。（札幌）
1955	昭和 30 年	北海道立地下資源調査所に改組。
1970	昭和 45 年	北海道公害防止研究所を開設。（札幌）
1991	平成 3 年	北海道公害防止研究所を北海道環境科学研究センターに改組。
1996	平成 8 年	海洋科学研究センターを設置。（小樽）
1999	平成 11 年	北海道立地下資源調査所を北海道立地質研究所に改称。
2010	平成 22 年	22 の道立試験研究機関を統合した地方独立行政法人北海道立総合研究機構の設立に伴い、環境・地質研究本部及び 2 試験場（環境科学研究センター、地質研究所）となる。

【建築研究本部】

1955	昭和 30 年	北海道立寒地建築研究所を開設。（札幌）
1989	平成 元年	北海道立寒地住宅都市研究所に改称。
2002	平成 14 年	北海道立北方建築総合研究所に改称。 札幌から旭川へ移転。
2007	平成 19 年	構造計算適合性判定センターを設置。（札幌）
2010	平成 22 年	22 の道立試験研究機関を統合した地方独立行政法人北海道立総合研究機構の設立に伴い、建築研究本部及び 1 試験場（北方建築総合研究所）となる。